



## 地域連携ゼミを通じて学んだこと

地域連携ゼミ・湯沢市観光物産協会班の田中舞子です。例年、私たちの班では、湯沢七夕絵どうろうまつりの実行委員会に加わり、まつり当日の運営業務をサポートしてきました。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で、まつりが中止となっていました。そのような状況の中、取り組んだ活動をご紹介します。

### ○実習の概要について

今年度は、「湯沢七夕絵どうろうまつりのために、今できること」を目標に、湯沢市観光物産協会をはじめ、多くの方の協力を得ながら活動を進めてまいりました。そこで私たちは、①冊子の作成、②塗り絵コンテストの開催、③SNSの活用、④グッズ制作の提案・実行を行いました。



絵師さん（右）へのインタビューの様子  
（田中、千田、齋藤）

### ○冊子の作成

湯沢七夕絵どうろうまつりの中止は戦後初の出来事であり、ある意味貴重な年となります。そこで、改めてまつりを見直し、まつりに関わる人々同士でそれぞれの思いを共有できる良い機会になると考えました。ZOOM ミーティングの段階から冊子の作成には賛成の意見が多く、提案から実行までがスムーズでした。現地インタビュー・地元中

地域社会コース3年次 田中 舞子  
学生のアンケート調査では、事前に対象者と質問項目を定めたことで、自分達はどんな話を聞きたいのかが明確になり、立場ごと（商店街・絵師・運営・イベント来場者・地元の若者）でインタビュー・アンケート結果を比較、検討するところまで到達できました。

これらの調査から、地域住民間での“まつりに対して求めるものの違い”が浮き彫りになり、来年以降まつりを継承していくうえでも、活かすことのできる取り組みになったと思います。何より、地元の方の湯沢七夕絵どうろうまつりに対する誇りや愛着が強く感じられました。

活動当初の私は、湯沢七夕絵どうろうまつりに関する知識は浅いものでしたが、実際にお話を聞いていくうちに、ネットの情報だけでは得られない貴重な内容や、まつりへの熱い思いを直に感じたことで、まつりを知らない人にも説明できるほど詳しくなり、興味関心も高まりました。

また、計30名以上の方にお話を伺ったことで、楽しい世間話から話の核心を引き出すコミュニケーション力、インタビューの中で気になったことを質問する積極性、インタビューを進める上での時間配分を学ぶことができました。アンケート調査を実施するにあたっては、各中学校へ協力をお願いするための電話確認、依頼文書の作成、お礼状の作成をしたことで、相手に失礼の無いような文書の作成方法を学びました。

アンケート用紙は、質問項目が多すぎたり、答えにくかったりしないよう回答者の立場を考慮しつつ、聞きたい内容はしっかり得られるように工夫しました。インタビューのまとめ方に関して、まずは録音した音声を全て文字に書き起こしました。そうすることで、話し言葉を書き直して読みやすくしたり、質問から脱線した部分を他の箇所で紹介するよう移動させたりと、細やかなところまで目が行き届きました。私の編集によって話者の言葉が変わってしまわないように、そして読者が読んでいて違和感がないように心掛けました。

冊子には、インタビュー記事、地元の中学生へのアンケート調査、塗り絵コンテストの審査結果（作品介绍）といった内容を掲載し、計79ページに及ぶ超大作が完成しました。最終報告会の際、湯沢市観光物産協会事務局長の佐藤さんからは「頂いたデータを形にして、今後配布できるようにしていきたい」と仰っていただきました。湯沢の皆さんの声を沢山の方に届けられると思うと、大変嬉しく思います。



秋田銘醸株式会社さんへ訪問  
(田中、千田、齋藤)

### ○塗り絵コンテストと SNS の活用

湯沢七夕絵どうろうまつりの認知度向上と興味関心を引き付けるため、2020年8月5日より開催した塗り絵コンテスト「#みんなでゆざわの絵どうろう」は、最終的に97作品の応募をいただきました。SNSでの募集だけでなく、子どもたちにも地元のお祭りに興味を持ってほしいと考え、地域の幼稚園の年長さんにもお声がけをしました。楽しんで参加していただけたとのことで、子どもたちでも参加がしやすいようにアニメ画の部門も設けて良かったと思います。冊子の作成と同様、各幼稚園へ依頼の電話、依頼文書、お礼状を作成しました。

また、アニメ画の下絵を提供してくださった絵師さんから塗り方のポイントを伺っていたので、それを私なりにまとめたものを依頼文書と共に送付しました。コンテスト開催当初は、参加者が中々現れず、不安な時期もありましたが、不安に思っているだけでは何も変わらないので、SNSで影響力のある秋田のタレントさんやご当地ヒーローに当コンテストの存在をお伝えしました。幸いなことに、お二人ともご参加いただき、作品をTwitter・Instagramに投稿してくださったおかげで、コンテストの存在はもちろん、湯沢七夕絵どうろうまつり自体の認知度も格段に上がったと思います。こ

れは、閲覧数やフォロワー数、SNSにいただいたコメントから確認できました。SNSに投稿して、拡散するのを黙って待つのではなく、自身が動いてフォロワー外のより多くの人へ情報を届ける行動力の重要性を実感しました。加えて、ABSラジオ「まちなか session エキマイク」に出演したことで、リスナーの興味を引く話し方、言葉のチョイス、質疑応答力が鍛えられました。ラジオには、コンテスト開催中と終了後、審査結果を発表するために、計2回出演しました。

幼稚園からいただいた作品と SNS に投稿された作品は、塗り絵コンテスト専用 Instagram アカウントで、随時紹介していきました。（#みんなでゆざわの絵どうろう と検索していただくと97作品全てを見ることができます！）参加者側の立場になって考えると、作品のみだけでなく少しでもコメントと共に投稿した方が嬉しく感じるのでは？ということから、全ての作品にコメント付きの投稿をしました。どれも個性あふれる素敵な作品ばかりでしたが、97作品被らないコメントを考えるのは容易ではありませんでした。表現の言葉を調べる機会も増え、語彙が豊富になりました。

湯沢七夕絵どうろうまつり実行委員会の各種 SNS のフォロワー数は増加し、塗り絵コンテスト専用 Instagram を開設したことによって、“塗り絵”という異なるジャンルのユーザーからのフォローも増えました。外出自粛が求められた社会情勢を意識し、SNSを中心とした「塗り絵コンテスト」を開催したことで、おうち時間を活かしつつ、湯沢七夕絵どうろうまつりの魅力を発信することができたと強く感じます。

### ○グッズ制作

グッズ制作のきっかけは、「湯沢七夕絵どうろうまつりにはグッズがない」ということです。グッズの販売は、まつりの認知度向上に加え、観光客にとっては記念品にもなります。そこで、私たちは絵どうろうのポストカードと、日本酒のラベルコラボ商品の提案・作成を行いました。

まずポストカードは、ゆざわ七夕絵灯ろう活性化協会（NPO 法人）が所有する絵どうろうの画像データをいただき、そこから3つ選択しましたが、それぞれの使用権はスポンサー企業が所有しているため、電話で使用許可を取りました。次に、日本酒のラベルコラボ商品は、秋田銘醸株式会社さんへ伺い、私たちが取り組んでいる活動やグッズ制作にかかる打ち合わせをしました。どちらも私たちの活動目的やグッズ制作の提案を明確かつ詳細に伝えることを気を付けたことで、言葉遣いや話のテンポ感を学びました。また、ラベルに使用する絵どうろうの写真については、これまで先輩方



が実施してきた「SNSの一般投票」の結果を活かし、そこでの上位作品をラベルにすることにしました。制作を進めていくうえで、絵どうろうの写真を目立たせつつ、「湯沢七夕絵どうろうまつり」という文字の配置や色使いにも注意し、いくつかのパターンを作成しました。

作成したラベルを実際の酒瓶に装着してみると、完成形をイメージしやすく、変更すべき点も見つけやすいことに気が付きました。ラベルデザイン担当の武石さんにもイメージが伝わりやすく、その後のグッズ制作も順調に進められたと思います。武石さんとは、メールでのやり取りも多かったため、メールにおけるマナーを学ぶことができました。

た。グッズ制作には、多くの連携・協力が必要であることから、プロジェクトの実現可能性や見通しを立てる重要性を実感しました。

今年度は、学生の提案をもとに、多くの方の協力を得ながら活動を進めてまいりました。湯沢の伝統あるおまつりの価値を見つめ直すとともに、未来のおまつりのあるべき姿を考えることで、私自身大変貴重な経験になりました。例年とは異なる状況にもかかわらず、「湯沢七夕絵どうろうまつりのために、今できること」を提案・実行することで、充実した活動になったと思います。



ABS 秋田放送 HP「Radipal Diary ABS radio car SINCE 1993」より  
ラジオ出演の様子（田中）



1月7日夜からの暴風雪で秋田市は風速36.9メートルと1月の記録を更新。暴風により電線が切れて県内は6万7千戸で停電。秋田市も多くのところで停電となりました。復旧に一日近くかかったところも多く、住宅屋外のボイラーが停電による低温で配管の水が凍り、破裂して故障するなど大きな影響が出ました。

その後9日には大雪となり、秋田市でも積雪が60センチに達しました。除雪が追いつかず、交通障害が発生し、バスも運休になるところが多く出ました。それ以前から積雪の多かった横手市は150センチを超え、県の災害派遣要請を受けた陸上自衛隊が6日から約240人で横手市などに応援に入りました。



## 教育研究カウンスル・運営カウンスル合同会議を開催

1月28日(木) 16:30~18:00、3号館1階150教室で表記の会議を開催しました。

両カウンスルの構成員は共通で、

- |                 |      |
|-----------------|------|
| ○学部長            | 佐藤修司 |
| ○副学部長           | 武田 篤 |
| ○副学部長           | 林 良雄 |
| ○学校教育課程主任       | 遠藤敏明 |
| ○地域文化学科主任       | 和泉 浩 |
| ○秋田県教育庁教育次長     | 石川政昭 |
| ○秋田県あきたみらい創造部次長 | 久米 寿 |
| ○秋田市教育委員会教育次長   | 嶋崎公人 |
| ○秋田商工会議所会頭      | 三浦廣巳 |

の9名となります。当日は、嶋崎教育次長、三浦会頭が所用によりご欠席でした。その他に、小野監事、鎌田教職高度化センター長、長谷川・林(正)・臼木・小池学部長補佐、佐々木学務委員長、高橋事務長他事務方が陪席しました。

議事要録の確認の後、カウンスルで検証を行うこととなっている第3期中期目標・中期計画の項目について説明・質疑・協議を行いました。また、附属中学校・特別支援学校の校長の選考についての日程等のお願いの後、今後の学部・研究科の方向についてご意見をうかがいました。

全体として、外部委員の方々から以下のようなことが出されました。

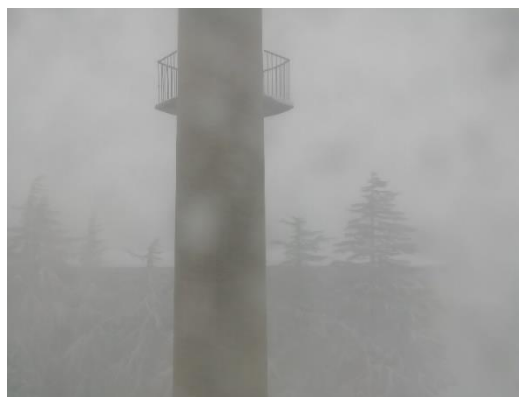
- 小学校教員の採用が拡大しているが、教育文化学部出身の県内講師を採用するだけでなく、他都道府県の教員となっている者も多く採用している状況である。
- 小学校だけでなく、中学校教員の採用も増えてきている。小学校と同時に中学校教員を目指す人も増やしてほしい。
- 高校の工業や中学校の技術の免許を持っている人を採用したいが、理工学部の教員免許取得者

は県外の者が多い。中学校の技術の免許は県内で取ることができない。免許外で担当している状況であることから、ぜひ対応をお願いしたい。

- 学部を改組するとしても、教員養成機能はきちんと残してほしい。
- 教職大学院卒の教員は学部卒の教員と比べて給与も高く、初任研の軽減措置もある。また、教員採用試験では教職教養が免除され、学部段階での合格者には名簿登載期間の猶予も行っている。ぜひ、教職大学院に進もうとする学部生が増えるように、学部卒と教職大学院卒の違いをアピールするようにしてほしい。
- 地方大学については差別化をはかること、地域でのプレゼンスを高めることが求められる。Society5.0などに対応し、地域に貢献する方向で進めてほしい。また、DXなどに対応できる人材の養成をお願いしたい。
- 秋田県の人口減少を止めるためにも、秋田県内の自治体・企業・団体に就職する人を増やすように一層取り組んでいただきたい。



1月18-19日の暴風雪



ホワイトアウト状態です



## 国際交流等学術研究交流基金の助成事業の成果報告会を開催

1月21日(木)の14:30~16:00、表記の会をZoomで開催しました。参加者は45名ほどでした。佐々木雅子国際交流委員長の進行で、学部長挨拶、交換留学制度・助成事業についての説明の後、成果の報告を行われました。

本来であれば4月下旬に行われるものなのですが、新型コロナの感染拡大の影響で実施が遅れ、今回の開催となりました。この基金は、本学部の同窓会である旭水会様からのご寄付によるものです。厚く御礼を申し上げます。この成果は、秋田の学校教育や地域社会に還元され、その国際化に貢献するものと期待しています。

今年度はやはり新型コロナの影響で、急遽留学を取りやめて日本に帰国せざるを得なくなった学生もいました。来年度も実際に場所を移動しての留学が実施できるかどうか定かではありません。世界及び日本における感染状況を見ると、楽観的にはなりにくいところですが、時が経てば移動が可能になってくるでしょう。学習ばかりでなく、観光なども含め、実際に現地の空気や自然、人間、生活、文化に触れることは、かけがえのない価値を持ちます。また、Zoomなど、オンラインでの受講が盛んになり、移動しなくても、海外の人々との交流が可能になっています。基金では、オンライン講座の受講についても助成を行うことにしていますので、学生の皆さんはぜひ積極的に活用してください。

発表者は以下の方々です。

### 【語学留学】

学校教育課程教育実践コース 渡部ひかる  
こども発達コース 美谷沙希  
異文化環境で世界標準を目指す統合型英語科教員養成プログラム(グリフィス大学(オーストラリア)での短期滞在研修)

2020.2月~2020年3月(16日間)

地域文化学科 川原谷真穂・工藤佳菜子・諏訪由衣・池田百花・熊谷二千翔・杉浦紫花・千田朝香

黒竜江大学(中国)での短期滞在研修

2019年9月(10日間)

地域文化学科 齊藤萌加・佐々木捺子・篠山葉月・千葉可奈子  
聖公会大学校(韓国)での夏期短期研修

2019年8月(16日間)

### 【交換留学】

地域文化学科人間文化コース 三浦純玲  
龍華科技大学(台湾)

2018年9月~2019年8月(約12ヶ月)

地域文化学科人間文化コース 齋藤 健  
ニューファンドランドメモリアル大学(カナダ)

2019年1月~2019年12月(約12ヶ月)

学校教育課程英語教育コース 丸井柊都  
セント・クラウド大学(アメリカ)

2020年1月~3月(新型コロナ感染拡大の影響により途中帰国)

**2019年度教育文化学部  
国際交流等学術研究交流基金の助成事業  
成果報告会**

教育文化学部では、主に学生の海外留学を応援するために助成事業を実施しています。

2019年度は計18名の学生が教育文化学部の助成を受けて長期もしくは短期の海外留学へ行きました。

ついでに、下記のとおり寄附者の方々及び教員・学生へ向けて報告会を開催します。留学を経験した学生から実体験を紹介していただきますので、ぜひ多数ご参加ください。

記

日 時	2021年1月21日(木) 14:30~16:00
会 場	オンラインにて開催(Zoom) ※対象者向けに別途メールにてお知らせします。
対 象	基金寄附者(旭水会)、教育文化学部教員・学生
次 第	14:30-14:35 開会挨拶(教育文化学部長) 14:35-14:45 交換留学制度、助成事業について説明 14:45-15:45 事業実施報告 ①聖公会大学校(韓国)での夏期短期研修 ②黒竜江大学(中国)での短期滞在研修 ③グリフィス大学(オーストラリア)での短期滞在研修 ④龍華科技大学(台湾)への交換留学 ⑤ニューファンドランド大学(カナダ)への交換留学 ⑥セント・クラウド州立大学(アメリカ)への交換留学 15:55-16:00 閉会挨拶(国際交流委員長)

教育文化学部国際交流委員会

## 「あきたリモート天文台 ホシゾラボ」を開催

秋田大学は12月17日、NHK秋田放送局の協力のもと、コロナ禍において開催を見合わせている「市民のための夜間天体観察会」を、「あきたリモート天文台 ホシゾラボ」として開催しました。

当日は秋田県内の星空愛好家の市民や星好きの親子ら10名の参加があった。実施に際しては新型コロナウイルス感染拡大予防対策を万全にし、密にならないよう、また換気を徹底して開催しました。



司会の高野キャスター(左)と解説の毛利技術長(右)  
大型モニターには成田総括技術長

参加者は、NHK秋田放送局の高野菜キャスターの司会と本学教育文化学部毛利春治技術長の解説のもと、NHK秋田放送局の8K大型モニターに映し出された天体の映像を大いに満喫しました。大型モニターには、星空に関するNHK制作のミニ番組「コズミックフロント」の迫力ある星空や、本学教育文化学部天文台の45cm反射望遠鏡ミルエルにNHK所有の超高感度カメラを取り付けて撮影された木星や土星、オリオン大星雲やこと座のリング星雲、ペルセウス座の二重星団などの映像を鑑賞しました。また、本学教育文化学部天文台でミルエルを操作している成田堅悦総括技術長とライブ中継を行い、火星やおうし座のすばる、ぎょしゃ座の1等星カペラ、オリオン座の1等星ベテルギウスなどのリアルタイムの天体映像を観察しました。

参加した市民からは、「今の空も見られたし、大学とのやり取りもおもしろかった」、「大画面で大学とのリモートコラボとても見ごたえがありました。テレビ局ならではのイベントを今後も続けてほしいです」、「高画質の大画面できれいな星空や天文台からの星や惑星が見ることができてよかった」、「星の説明をていねいにしてもら

い、勉強になりました。大画面でリアルな星をたくさん見られてうれしかった」との感想がありました。

なお、当日の様子は「ニュースこまち」の中継のコーナーで生放送されました。

開催日時：令和2年12月17日(火) 17:00～18:30

会場：NHK秋田放送局1階 8Kオープンスタジオ

主催：秋田大学、NHK秋田放送局

参加者：秋田県民 10名



イベント会場全体の様子

【全学HPより転載】





## 令和2年度「秋田大学における障害者の生涯学習モデル講座」の実施報告

特別支援教育コース担当 前原和明

現在、特別支援教育研究室では、秋田県生涯学習課からの要請を受けて「障害者の生涯学習支援モデル事業」に共同で取り組みを開始しています。既に、秋田県生涯学習課では、平成30年度から令和元年度にかけて、文部科学省からの委託を受けて、障害者の生涯学習推進に向けた検討及び県内5団体を活用したモデル事業を開始しています。これまでの検討及びモデル事業を踏まえて、今年度より秋田大学での障害者の生涯学習支援モデル事業による効果的な学習プログラム及び実施体制の開発を開始することになっています。



今年度は、「秋田大学における障害者の生涯学習モデル講座」として、附属特別支援学校在学学生及び卒業生を対象に講座を2回実施しました。

1回目の講座は、教育学研究科の長瀬達也教授にご協力を頂き、「パラパラ漫画を作ろう！ーじっくり、ゆっくり、楽しくー」と題して講義を行っていただきました。参加者からは、「楽しい〜！」などのつぶやきが聞かれ、美術に関する興味の高まりを確認できました。



2回目の講義は、教育文化学部の佐々木信子特別教授に、「おいしく食べよう！」と題して講義を行っていただきました。参加者は、「食」という身近なテーマであることから、普段の自らの食事状況を振り返りながら、質問に対して積極的に手を挙げ、講義に参加していました。

今年度は、3年計画の1年目ということで、今後の本格実施に向けての予備的調査として試行的な講座を実施しました。講座を実施して、障害のある方々にとっては、大学の中で学ぶという体験は初めてのことです。今回の会場は、60周年記念ホール（2回目は3-255）でした。この大きな講義室での講座の受講は、緊張を感じるものであったようですが、大学での学びの雰囲気存分に味わえたよう思えました。また、今回の講座は、障害のある方々にもわかりやすいように配慮してありましたが、美術学及び栄養学に関するものでした。このような「～学」の学びは、これらかの学びへの動機づけ、また日常生活における社会への関心につながることを期待できます。

この取り組みは、令和4年度までの3年間事業になります。次年度については、この講座数を増やし、系統的に学ぶことためのプログラム内容について検討を行っていきます。次年度の試行を通して、最終年度には、「履修証明プログラム」を作り上げていくことを目指しています。

最後になりますが、ご紹介した「秋田大学における障害者の生涯学習モデル講座」の目下の課題は、大学における学びを提供するための講座（コンテンツ）の充実です。今後の講義内容の検討に向けて、講座（コンテンツ）の提供にご協力を頂きますと大変助かります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

\* 一部不明・不正確な箇所があります

### 【全国】

- 1/1：全国の重症者が 700 人を超えて 716 人となる。
- 1/5：秋田県で感染者累計が 150 人を超えて 157 人となる。全国の一日の死者数が 70 人を超えて 76 人となる。これ以前は、12 月 25 日の 64 人が最多。12 月 15 日に 50 人を超えて 53 人となり、12 月 1 日に 40 人を超えて 41 人となり、11 月 27 日に 30 人を超えて 31 人となっていた（5 月 2 日も 31 人で、それ以来の 30 人超）。
- 1/6：東京都で新規感染者が 1500 人を超えて 1591 人となり、全国では 6000 人を超えて 6001 人となる。
- 1/7：首都圏（東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県）に緊急事態宣言発令。1/8 から 2/7 まで。同時に、GoTo トラベルの一時停止も合わせて延長。東京都で新規感染者が 2000 人を超えて 2447 人となり、全国では 7000 人を超えて 7570 人となった。
- 1/8：全国の重症者が 800 人を超えて 826 人となる。
- 1/13：首都圏に加えて、大阪府、京都府、兵庫県、愛知県、岐阜県、福岡県、栃木県を緊急事態宣言の対象区域に追加することを決定。1/14 から 2/7 まで。全国の一日の死者数が 90 人を超えて 97 人となる。全国の重症者が 900 人となる。
- 1/17：秋田県で一日の新規感染者が 12 人となり、感染者累計が 200 人を超えて 208 人となる。
- 1/19：全国の重症者が 1000 人を超えて 1001 人となる。全国の一日の死者数が 100 人を超えて 104 人となる。
- 1/23：全国の累計死者数が 5000 人を超えて 5064 人となる。
- 1/26：秋田県の感染者累計が 250 人を超えて 251 人となる。
- 1/28：全国の一日の死者数が 110 人を超えて 113 人となる。

### 【秋田大学】

- 1/7：県外に帰省する学生がいることから、授業は 1/7（木）～1/20（水）まで全て遠隔で実施。研究活動は、県外異動していなければ入構可。県外移動をした学生は帰県後 14 日間の自宅待機・登校不可。
- 1/8：非常事態宣言が出た地域との往来については真にやむを得ない場合を除いて避けるように通知。
- 1/12：学長の年頭挨拶を Zoom で実施。
- 1/14：学生の県外移動は自粛し、緊急事態宣言地域への移動は避けるとともに、当該地域への移動希望者は 1 週間前までに学務担当に申請し、学部長の許可を受けるよう通知。
- 1/16・17：大学入学共通テスト第 1 日程を実施。
- 1/22：学校推薦型入試Ⅱを実施。  
講演会等イベント・行事（学内の会議を含む）は原則としてリモート開催とし、真にやむを得ず開催する場合はマスク着用で参加者間の距離を現状の最低 1m 確保から最低 2m 確保に変更。
- 1/25：授業時における座席間隔を現状の 1m 間隔から 2 m 間隔へと変更。
- 1/30・31：共通テストの第 2 日程を実施。

### 【学部・研究科】

- 12/10：教授会・研究科委員会を Zoom で開催。これまではすべて書面審議だったが、協議事項と、口頭説明が必要な報告事項については Zoom で実施し、あわせてすべての事項について質疑等を行うこととした。当分の間、同様の形式を予定。
- 1/21：国際交流等学術研究交流基金の助成事業の成果報告会を Zoom で実施。
- 1/28：教育研究カウンスル、運営カウンスル合同会議を対面で実施。

#### 発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html)

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate\\_magazin.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html)

\* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910 年制作）を聴くことができます。

[http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu\\_symbol.html](http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html) をご覧ください。